

## V 実践的指導力の向上

### 1 授業研究による幼児児童生徒へのきめ細やかな指導や支援の検討

#### 【研修の概要】

指導案の意義を確認し、作成のポイントを理解する

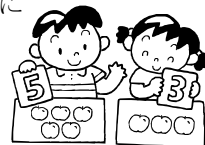
作成した指導案に基づき、授業を実践する

授業実践の評価を授業改善に結びつける

- ・教員の指導力の向上
- ・指導や支援の充実

#### なぜ指導案を作成するの？

- 一人ひとりの幼児児童生徒への指導や支援の手立てを明確にするために
- 幼児児童生徒への指導や支援の評価と教員間での共有のために
- 保護者や地域住民への教育活動の説明のために
- 学校組織の問題解決力の向上のために



- ◆指導案に基づく計画的な指導や支援により、着実な幼児児童生徒の成長が期待できます。
- ◆指導案に基づく評価により、指導や支援の内容・方法の改善を効率的に行うことができます。
- ◆指導案（授業）について語り合うことにより、幼児児童生徒を多面的に理解できます。

教員としての資質の向上

幼児児童生徒への指導や支援の充実

#### 特別支援教育の指導案の特徴は？

- ◆校種や対象となる幼児児童生徒にかかわらず、学習指導案の基本的事項は変わりません。

##### 《指導案の基本的事項》

- 単元（題材・主題）名
- 単元（題材・主題）設定の意図
  - ・幼児児童生徒観
  - ・教材観
  - ・指導観
- 単元の目標
- 単元の評価規準
- 単元の学習計画（指導と評価の計画）
- 本時案
  - ・主眼（ねらい）
  - ・準備
  - ・学習過程
    - 学習活動・内容
    - ↓
    - 予想される幼児児童生徒の反応
    - ↓
    - 指導上の留意点及び支援
    - ・評価



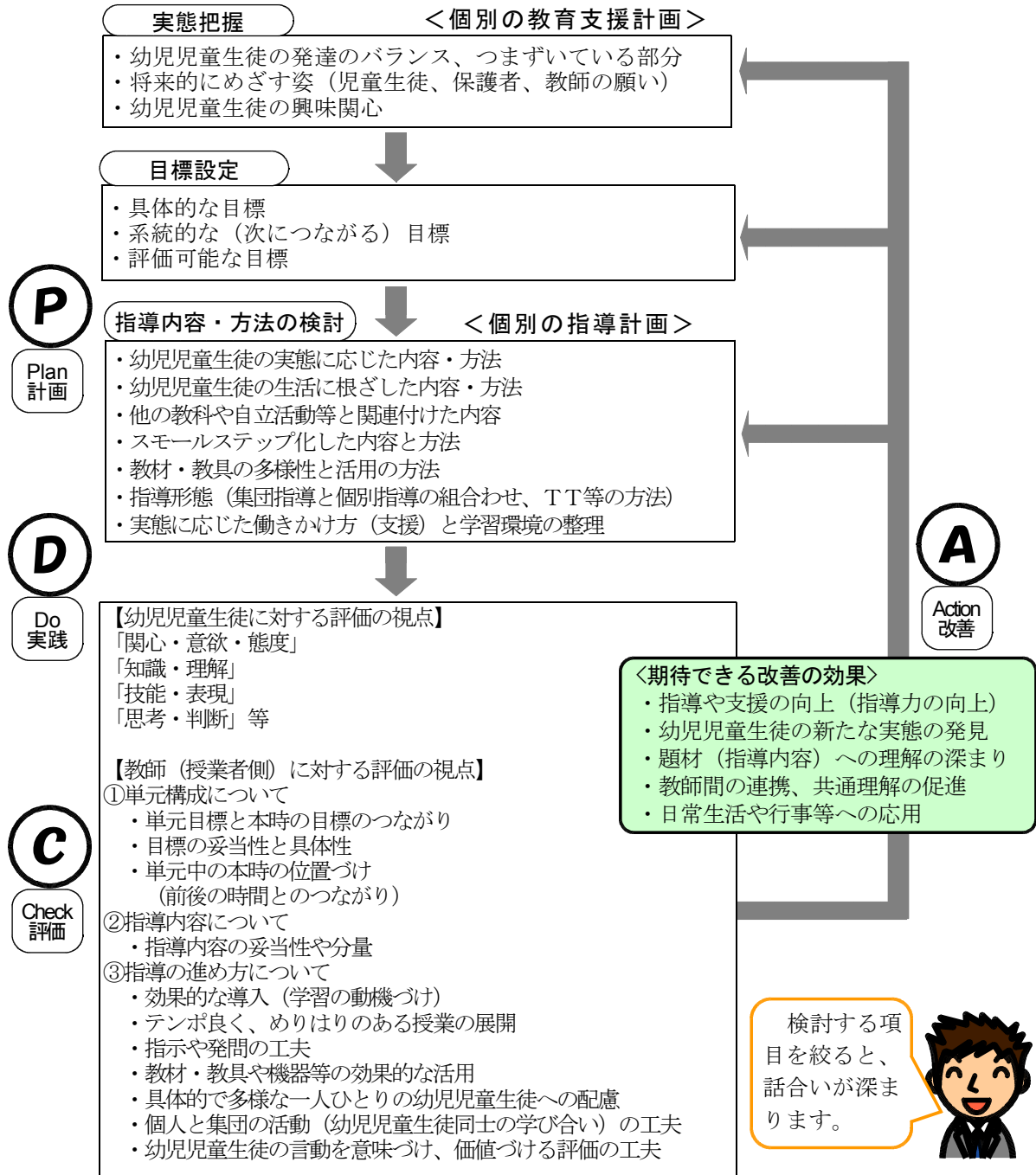
##### 一人ひとりに応じた指導や支援

- 特別な支援を要する幼児児童生徒について
  - ・実態（つまづきや困難の背景）
  - ・目標のスモールステップ化（指導目標を達成するための課題）
  - ・支援の方法
  - ・配慮事項
  - ・教師の役割分担（TTによる指導）
  - ・評価の観点

これらの内容を、必要に応じて基本的事項に加えたものが、特別支援教育の学習指導案です。



指導案の作成から授業改善までの流れは？



【まとめ】

- ◆指導案は、よりよい授業を行うための計画であり、幼児児童生徒への指導や支援の充実だけでなく、教員の資質向上にも重要です。
- ◆特別支援教育の学習指導案には、一人ひとりの幼児児童生徒の実態に即した、個々の目標、活動及び支援等を明記することが大切です。
- ◆特別支援教育に限らず、授業力が教員の専門性の土台です。授業力を高めるには、授業研究による指導内容・方法等の工夫・改善を繰り返し、その成果を蓄積していくことが大切です。

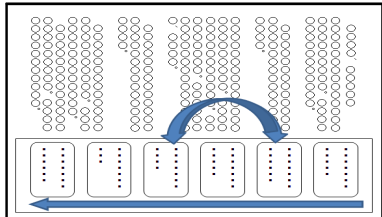
## 指導案の例

<文章を読むことが苦手で、文章の要旨をとらえることが難しい児童への支援>

○教科及び単元名 小学校第4学年 国語科「段落のつながりに気をつけて読もう」 第6時(全10時間)

○本時のねらい 意味段落を3グループに分ける活動を通して、段落間の関係を理解し、文章全体の構成をとらえることができる。

○本時の流れ(概略)

学習活動・内容	教師の働きかけ	留意点及び支援 (※) 配慮を要する児童への支援
1 課題の確認	○課題を全員で読ませる。	○課題をカードにして黒板にはる。
	①～⑨の段落を3つに仲間分けしよう。	○本時の流れをボードにして机上の右隅に置く。(※)
2 各段落の内容の確認	○全文を音読させる。 ○前時にまとめた各段落の要点を確認させる。	○前時に記入したワークシートを配付し、各段落の要点を想起させる。
3 意味段落分け	○段落を仲間分けさせ、その理由を考えさせる。 ・文章の流れを確認させる。 ・接続語に注目させる。 ・内容によって仲間分けをさせる。	○カード式の流れ図を用意し、ワークシートの要点をカードに書き写させる。(※)
4 段落間の関係の理解 ・意見交換	○「はじめ」と「おわり」の部分について自分の考えを述べさせる。 ○自分と友達の考えの同じところ、違うところを確認し、自分の段落分けを再度考えさせる。 ・「はじめ」は問題の投げかけ、「おわり」は分かったことが書かれていることに気づかせる。 ○友達の考えを聞いた後の自分の考えの変化を発表させる。 ・友達の考えを聞いて、自分の思いがさらに強まった児童 ・友達の考えを聞いて、自分の考えが変わった児童	○ワークシートに印やアンダーライン、メモを書かせる。 ○カードを並べながら仲間分けさせる。(※) ○接続詞名やキーワードが書かれたヒントカードを渡す。(※) ○児童の考えの共通点や相違点が分かるように板書する。 ○時間を確保し、マーカーで目立たせた本文の中のキーワードとカードに書かれた要点を見ながらカードを並び替えさせる。(※)
5 まとめ ・説明的文章の読み方 ・段落の役割	○各段落の要点と接続詞をもとに全員で段落の構成を整理させる。 ・「まず」「次に」「さらに」でつながっていることに気づかせる。	 <p>○「これら」「また」という接続詞の存在に気づいた児童を称賛する。</p> <p>○数名の児童の図をプロジェクター投影しながら発表させ、互いの理解を深めさせる。</p> <p>○要点や接続詞をもとに、「はじめ・中・終わり」を確認していく。</p> <p>○カードのまとまり間の境に線を引かせ、仲間分けを確認させる。(※)</p>

<決められた時間の中で、次々と提示される課題に取り組むことが苦手な生徒への支援>

○教科及び単元名 中学校第1学年 英語科「Program6」(Whenの用法) 第2時間(全5時間)

○本時のねらい Whenの用法を理解し、相手に時を尋ねたり、答えたりすることができる。

○本時の流れ(概略)

学習活動・内容	指導上の留意点	生徒A～Cに対する支援
1 英単語小テスト ・コース(5問、10問)別 ・生徒による相互採点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を計り、1分間で取り組ませる。積極的に取り組めるように出す内容を決めておく。</li> <li>・スクリーン(電子情報ボード)に解答を映し出しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aが取り組めていなければ声をかける。</li> <li>・Bに個別に声をかけるとともに、単語カードに書いた解答を渡して正しく採点できるようにする。</li> <li>・Cには、1分間がんばったら終わることを事前に確認しておく。</li> </ul>
2 復習音読と音読発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読を5回以上行い、全体の前で音読発表をする。</li> <li>・様々な方法(範読後、CDの後、CDと一緒に、友達とペア等で)で音読練習をし、あきないように何度も声を出す場面を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教員はA、Bとペアを組み、称賛して自信をつけさせてから全体の前で発表させる。</li> <li>・練習時に最もスムーズに取り組めた方法で発表させる。</li> <li>・生徒間で教え合う雰囲気を作るように適宜声をかける。</li> </ul>
Whenを使って会話をしてみよう。		
3 新出文型の音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDを利用して、音読させる。</li> <li>・動画を準備し、視覚にも訴えて、「When～?」の使い方の理解を助ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bをはじめ、不安に感じている生徒にふりがなカードを配布するとともに、教師は目線ががんばりを認め、意欲的に取り組ませる。</li> </ul>
4 新出文型を用いたコミュニケーション活動 ①1週間のスケジュール ②ワークシートへの記入 ③全体発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名の生徒を相手にしてやり方を実演する。</li> <li>・基本文型をスクリーンに映しておき、尋ねる時、ワークシートに記入する時の参考にさせる。</li> <li>・早くできている生徒はペアを替えて取り組ませる。</li> <li>・ペアで協力して発表できる雰囲気を作る。</li> <li>・誰の発表がよかったかを聞き、生徒相互の推薦による模範発表を行い、美しい発音について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸惑っている生徒に声をかけ、一緒にやりながら理解を促す。</li> <li>・Bには基本文のカードを利用しての個別練習に取り組ませる。</li> <li>・A、B、Cには例文のカードに従って取り組ませる。</li> <li>・Cには声の大きさカードを利用して、声の大きさに留意させる。</li> <li>・A、Cにはペアチェックシートを利用し、3人以上の生徒と取り組ませる。</li> <li>・A、B、Cができていることを確認してから例文カードを使って発表させ、自信をつけさせる。</li> </ul>
5 Whenの用法をノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめる内容をスクリーンに映し出す。</li> <li>・赤文字で示した重要な部分は、必ずノートに記入するように指示する。</li> <li>・早くできた生徒にはワークの問題に取り組ませる。</li> <li>・次時の予告をし、学習に見通しがもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aの手が動かないときは個別に声をかける。</li> <li>・早くできた場合には次のように指示する。 <b>生徒A</b>：ワークの問題に3問取り組む。 <b>生徒B</b>：基本文のカードを5回視写する。 <b>生徒C</b>：マーカーでチェックした解答しやすい5つの問題に取り組む。</li> </ul>

## 指導案を作成する際の留意点は？

自校の指導案の様式に、特別な支援を要する幼児児童生徒への指導や支援を記述します。

### ○目標及び主眼

- 単元の目標や本時の主眼を達成するための課題を記述します。

「数を数えることを通して、10のまとまりから100のまとまりを作って数えるというよさに気付くとともに、百の位について知る。」



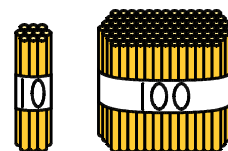
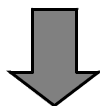
特別な支援を必要とするAくんが目標を達成するための課題

- ①「100までの数え方、読み方、書き方を理解する。」
- ②「2位数の位取りができる。」
- ③「100までの数について、数の構成や大小、順序、系列などを理解する。」



①～③の課題を達成するための発問や補助資料を準備します。

- 授業の中で、いつ、誰が（TTによる指導等の場合）、Aくんに関与するかを指導案に記述します。



### ○教師の支援

- 発問に対する幼児児童生徒の反応を多様に予想し、指導や支援を考えるようにしましょう。
- ①意欲的に取り組むことが難しい、あるいは十分に理解することが難しい幼児児童生徒  
⇒「○○の理解が難しい幼児児童生徒には～を提示する。」
- ②ねらいを達成した幼児児童生徒  
⇒「○○ができた幼児児童生徒には、～と問いかけ、発展的な学習に取り組ませる。」

- 「特別支援教育用の指導案」を作成することを意識し過ぎるのではなく、これまでの指導案に、「個別の課題」「個に応じた指導や支援」を記載するようにしましょう。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している場合には、それぞれの計画の目標と関連づけた目標、指導や支援の内容を記載することで、計画の評価及び改善につながります。



## 授業後の検討はどうすればいいの？

### 授業検討の流れ



#### ①検討の視点の確認

- ・検討の視点を出席者全員で確認し、明確にしておきます。

#### ②授業者の自評及び出席者からの質問

- ・授業者は、学習指導案や具体的な幼児児童生徒の姿を基に授業を振り返ります。
- ・出席者は、自評を受けて、授業者に質問します。

#### ③授業検討

- ・出席者は、単に感想を述べるのではなく、指導や支援の改善策を具体的に提案するよう心がけます。

〔検討事項の例〕指導仮説と関連させて検討します。

- 主眼が適切か
  - 学習内容や学習方法は適切か
  - 主眼達成のための手立てが適切か
  - 評価方法は適切か 等
- ※適切であったかどうかだけでなく、「どうすればよかったか」、「今後どうすればよいか」もあわせて検討しましょう。

#### ④改善点の整理

- ・検討の視点に基づいて話し合った改善点を整理し、出席者全員で確認します。

### 検討を深めるための支援内容の整理

- 主に導入部で …… 幼児児童生徒の興味・関心を喚起するための支援
- 主に展開部で …… 幼児児童生徒の学習課題への取組を促すための支援  
…… 幼児児童生徒の活動が停滞したときの支援
- 主に終末部で …… 幼児児童生徒の学習内容を理解、定着させるための支援

### 【参考】教師側に対する評価の視点（例）

- ・主眼は達成されたか（適切だったか）
- ・実態把握は的確だったか
- ・学習の内容と分量は適切だったか
- ・指導や支援の内容やタイミングは適切だったか
- ・授業の流れや指導形態は適切だったか
- ・教材・教具は効果的だったか 等

どのような観点で授業改善の取組を行っているか、取組の成果として、幼児児童生徒にどのような変化が見られているかを、保護者にも十分説明していくことは、学校と家庭との協力関係を築いていく上で重要です。

